

第五回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：茜

【日時】

11月7日(月) 10:00~12:00

【場所】

305会議室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの結果を確認しよう

ステップ2：中間発表資料を作ろう

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに**【中間発表会の説明】**

コンサルタントより、中間発表会の説明がなされた。また、中間発表会当日の出欠席者の確認がなされた。

ステップ2：中間発表資料を作ろう**【本日の進め方について】**

中間発表資料(案)の内容を話し合い資料を完成させていくことにした。

【中間発表会資料(案)の検討】**(グループの紹介について)**

- ・ 表紙に記載してあるグループの紹介文の中の「子育てしている(していた)」は、「子どもに関わっている」に変えた方が良い。
- ・ 他グループの特長を知りたい。
- ・ 他グループのことは中間発表会である程度明らかになるので、それらを聞いて、最終提言によりこのグループの個性が出るようにしたらどうか。

(荒川区の目指すべき将来像・2-1 目指すべき将来像・考え方について)

- ・ 荒川区民の歌「あらかわ ~そして未来へ」は、とても良い歌だと思っている。歌の中にあるようなまちの姿が望ましい。
- ・ ライフステージごとの将来像を楕円に合わせて矢印で追って書いているが、「高齢者」の箇所が下がってしまっているのはいかがなものか。階段のように積み上がっていくようなものが良い。
- ・ 「暮らし方のブームをつくれるまち」とあるが、ブームという言葉は、わかりにくいと思う。
- ・ ブームという言葉を使うよりは、シンプルに「暮らしやすいまち」にしてみたらどうか。荒川に暮らしをみたい、暮らしやすいと思ってもらえるようなものが良いと思う。

- ・それぞれのライフステージで想定している年齢を表記したら、わかりやすいのではないか。という意見があったが、ライフステージでの年齢は、人それぞれの生き方や感じ方によって違ったりするのではっきり明示しなくても良いということで明記しないことになった。
- ・テーマの中にある「子どもを育てやすい」は子どもと子育てをする世代という括りをしてはいるが、それは一緒にせず、子どもだけにした方がよい。
- ・区内ではやはり世代間の断絶が存在していると思う。共通の理念の中にある「豊かな人間関係・地域社会をはぐくむ」の中に、「世代を超えて仲良く暮らせるまち」を付け加えてみてはどうか。
- ・「共通の理念」は少しわかりづらいが、それぞれの世代の粋を超えた重要なものという位置づけということで、それをはっきりさせた書き方にした方がよい。
- ・資料のレイアウトとして、共通の理念の中に、4つの理念があるような図にした方がわかりやすい。
- ・表題は、「目指すべき将来像」ではなく、「将来像をどう考えるか」というような表現に変えた方がよい。

(荒川区の目指すべき将来像・2-2(1)子どもを生きやすいまち(こども・子育て世代)について)

- ・行政の支援は、母子家庭だけではなく、父子家庭にも必要な場合も多いが、父子家庭への支援はあまり整っていないので項目に付け加えてほしい。
- ・「保育士の仕事が重要な仕事だと評価されている」の中で、幼稚園教諭が抜けているので付け加えてほしい。
- ・親の立場からすれば、教育費が低廉で、十分に教育ができれば、公立の方が良いのではないかと思う。
- ・3年保育を実施している公立の保育園や幼稚園は少ないので、3年保育を希望している家庭では、私立を選ぶしかないという現状がある。
- ・幼稚園・保育園の一元化は、幼稚園教育を望んでいる女性、特に働く女性の子育てのサポートになるのではないか。
- ・幼稚園・保育園の一元化は、管轄が違うので、すべてを一緒にというものは難しい面があるが、他区では実施しているところがある。
- ・他区の一元化の実施内容は、幼稚園がやっている時間帯は、幼稚園・保育園の園児と一緒に幼稚園の授業を受ける。そして、保育の子どもはそのまま残って昼寝をし、夕方のお迎えを待つ、といった形態になっている。
- ・全部一元化をすれば良いというわけではない。それぞれの生活に合わせて、様々な選択肢が増えれば良いのではないか。
- ・行政の独立法人化が進んでいるが、幼稚園・保育園こそ、独立法人化してみたらどうか。独立法人化によって、公立の幼稚園・保育園は、企業努力をするようになるのではないか。
- ・説明文に記載されている「都心へのアクセスが良いという好立地条件という特性を生かし」は、わかりづらいと思うので表現を変えるべき。

(荒川区の目指すべき将来像・2-2(2)豊かに、健やかに学力向上ができるまち(学校教育を受ける世代)について)

- ・ 今の段階で中高一貫校を実現するためには、莫大な予算がかかると聞いたことがある。地域と連携する等、あまりお金をかけない方法を探してやってほしい。
- ・ 他区では、廃校寸前の人数も少なくなってしまった学校が、東大や芸大の学生から授業のサポート役として支援してもらい、学力が区で一番になった例があると聞いたことがある。荒川でも、実際に学校の場で大学生からの協力を得ることを推進したらどうか。
- ・ 他区では、学校ごとに何かのテーマのコアスクールがあり、そこから情報発信ができるようなシステムがある。
- ・ 荒川区は、学校について、ハード(施設)はある程度整ってはいるが、ソフトはまだできていないと思うので、ソフト面の充実をどう行うかが課題だろう。
- ・ 説明文に記載してある「しかし、これからの地域社会を考えると・・・」の文章は、削除した方がよい。

(荒川区の目指すべき将来像・2-2(3)暮らし方のブームをつくれるまち(就業・生活者世代)について)

- ・ ブームは一過性のものなので、ブームという言葉を使用しない方がよい。
- ・ ブームという言葉の代わりに、「暮らし方の定番」や「生活モデルを発信できる」等のような言葉が良いと思う。
- ・ 「憧れる暮らしのモデルを発信できるまち」とした方がよいのではないか。
- ・ 「荒川テーマパーク」という表現を変えたい。下町的、江戸的なイメージづくりができれば良いと思う。
- ・ 他の地方では、商店街がサービス向上に努めて、大型店を撤退させたという例がある。荒川区にもそのように活動できる店主がたくさんいれば良いと思う。
- ・ 荒川区は小さい区なので、区内全域を自転車で十分まわれる。もっと自転車の自由度が高くなれば環境にも良いと思う。そのためには、思い切って、歩道全部を駐輪場にしても良いのではないか。
- ・ 南千住の大型店前の歩道は、自転車専用と歩行者専用に分かれているが、結局あまり区別されないようになってしまい、逆に利用しにくくなっている。
- ・ 「皆がボランティアをするのが当然と思えるようなまち」も追加したい。
- ・ オーストラリアへ行ったワーキングホリデーなどでは最初の仕事として、ごみ拾いや道路掃除等、社会奉仕的な作業が課せられると言う。荒川も学校教育よりそのような社会奉仕活動を体験したりする機会が多くあれば、そのような心が育まれるのではないか。
- ・ 学生等の若者も、働きかけによっては、熱心にボランティア活動をすると思う。うまくそういう意識を持ってくれるような仕組みづくりが大切である。

(荒川区の目指すべき将来像・2-2(4)高齢者が元気にすごせるまち(高齢者世代)について)

- ・ 数年後、元気で能力がある団塊の世代の方々が定年退職される。貴重な人材を活用できる

ような仕組みづくりが必要である。

- ・ 現状では、老人ホームの入所待ち等の問題があり、元気で安心して過ごせるまちとはいいいない。
- ・ 「高齢者が元気にすごせる」と言うのではなく、「元気にはたらく」と言う表現が良いのではないか。
- ・ 今後、国内の労働力が低下することが想定されるので、高齢者も何らかの形で生涯働いていくことが必要となってくると思う。
- ・ 健康寿命を延ばすためや病気・体力低下を予防するための方策がとられるようになった。そのようなことは評価できる。
- ・ 高齢になっても働けるようなシステムづくりが必要である。働くことで、人から必要とされるし、そう感じる事もできる。それは「いきがい」にも繋がり、大切だと思う。
- ・ 様々な箇所での高齢者のワークシェアリングのシステムを考えてみてはどうか。
- ・ 行政は、シルバー人材の方に仕事を紹介するだけでなく、気持ちよく働けるような環境づくりもしてほしい。
- ・ 「元気で働いていける」という項目も付け加えてほしい。

(世代横断的に進めて行くべき方向性について)

- ・ 行政の組織は、世の中のスピードに対応できていない。行政側の機動性を高めてほしいと思う。そのようなことを入れたらどうか。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いを振り返りながら、更に意見を伺った。

- ・ 昭和初期の下町の町並みづくりを試みるのも良いのではないか。
- ・ 「荒川テーマパーク」についての表現が気になる。荒川区はそれぞれの地域で特色があるので、地域ごとのイメージづくりがあっても良いと思うといった趣旨なので、そのように変えてはどうか。
- ・ 隠れた文化遺跡が、たくさんあると思うので発掘してみてもどうか。
- ・ 日暮里あたりは、下町情緒（昭和初期）のイメージが残っている。
- ・ 他地域では、地元の伝承を基に市民ミュージカルを作って、地域住民の交流の場になっている。そういった区民の力が発揮できるような区であってほしい。
- ・ 荒川区のイメージになっているのはやはり都電である。都電のあるまちなみ等を活かした方がよい。
- ・ 「気楽に素顔で歩けるまち」のようなイメージづくりが良いのではないか。
- ・ 都電やコミュニティバスの路線をのばしてみてもどうか。
- ・ 葛飾区の帝釈天のような絶対的なイメージのものが、荒川区にも欲しい。

これ以降は本日の意見を踏まえて資料を修正し、報告者の確認をとって茜グループの中間発表資料とすることが了承された。

ステップ4：その他

【次回について】

11月中間報告会の発表者の選出を行い、発表者が選出された。

中間発表会は11月23日(水)13:30より

【次々回について】

次々回日程は12月19日(月)の10:00より